



鵜戸さん獅子舞

鵜 戸

発行者兼編集者
 鵜 戸 神 宮
 社 務 所
 印刷所
 西 日 本 印 刷

暑中お見舞い申し上げます
 山 紫 水 明



宮 司 杉 田 秀 清

鵜戸さん参りは春三月よ

参るその日が御縁日

参りやとにかく帰りの節は つけておくれよ青島え

(アーコンキコンキ)

鵜戸さん良いとこ一度はおいで 一目千里の灘がある

行こか参るか七坂越えて 鵜戸の神社は結び神 (アーコンキコンキ)

鵜戸さん参りに結うたる髪も 馬にゆられてみだれ髪

音に名高い背平の峠 坂は七坂七曲り (アーコンキコンキ)

このシャンシャン馬道中唄は古謡で、歌詞は素朴ながら当時の鵜戸さんへの参拜の様子を極めて良く表しています。

又旋律も明るく、民謡を好む人には必ずやこの唄を練習し、人々に贈炙されている唄です。

この唄にあります通り、旧三月十六日には結ばれた若夫婦は、花嫁を馬に乗せ花婿が手綱を引き「七浦七峠」を越えてはるばるとお詣りをし、その行列は此処彼処に続き、当日はあたかも祭礼の行列のようであったといわれています。

当神宮では、毎月初卯の日に縁日祭を連綿と厳修してまいりました。そこで、今年は今上陛下御即位十年の佳年であり、かつて旧二月初卯の日には、大漁、五穀豊穡、家内安全を祈願する人々で賑わった「御縁日」を何とか復活しようと「緑日大祭」と名付けて、昔日の御縁日の賑わいを再現しようと全員で取り組みました。

当日シャンシャン馬道中唄を御神前に奉納し、「鵜戸さん獅子舞」が二十年ぶりに復活し、舞楽(蘭陵王)、浦安の舞などの奉納で社頭は賑わい、終日参拝者はきれることなく意義ある御縁日となり御神慮にかなったものと存じています。

今まさに夏、波濤は奇岩、岩窟に打ち寄せ、野鳥がさえずり、ツマベニチョウ(蝶)が舞っています。「鵜戸さんよいとこ一度はおいで」どうぞ二度、三度とお揃いでお詣り下さい。

皆様の御平安と御多幸をお祈り申し上げ御挨拶と致します。

例祭齋行と奉祝行事

生憎の雨となった二月一日、献幣使 日高幸満氏（県神社庁理事）御参向の下、午前十時半より例祭が厳肅に且つ盛大裡に齋行され、責任役員、氏子・崇敬者総代を始め、四神宮（英彦山、霧島、鹿尾島、宮崎）宮司、県内外神社宮司、官公衛関係、地元は元より全国各地の崇敬者等多数の参列を賜った。

祭典には、舞楽「納曾利」が奉納され厳かな中にも華やかさがそえられた。又、祭典に先立ち福岡藩伝柳生新影流兵法 第十四代宗家長岡鎮廣氏他によって、連綿と受け継がれてきた兵法が奉納された。

奉祝行事として二月二日、第二十七回鵜戸神宮奉納四半的弓道大会が、新駐車場にて開催された。五十四チーム、二四六名が参加し競技が行われ、和やかな

雰囲気の中にも、四週半先にある的を射る真剣な眼差しがあった。

二月七日には、第四十六回剣法発祥鵜戸山顕彰剣道大会が、儀式殿前広場で開催され、県内各地から男子団体一二二チーム、女子個人約二三〇名が出場。

好天に恵まれて、三年ぶりに神宮での開催となり、選手たちの息詰まる熱戦が終日繰り広げられ、鋭い掛け声が久しぶりに速日峰に木霊した。



納曾利



福岡藩伝柳生新影流



浦安の舞



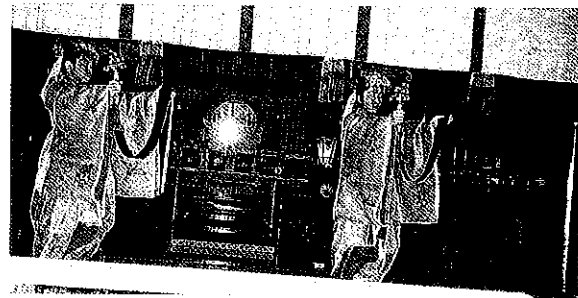
田上小百合さん

祈年祭齋行

今年の五穀豊穡と国家の安泰を祈る祈年祭が、二月十七日午前十時三十分より厳肅に齋行された。

当日は、責任役員、氏子・崇敬者総代を始め多数の参列を賜り、宮司以下祭員によって奉仕され、宮司祝詞奏上の後、「浦安の舞」が奉納された。

参列者も、今年も実り多き年でありますようにと、祈念して玉串を捧げていた。



縁日大祭齋行

前日の風雨がうそのように晴れ上がり、五月上旬の気温となった四月十一日、昭和二十九年を最後に途絶えていた縁日大祭が、責任役員、氏子・崇敬者総代をはじめ多数の参列を賜り、四十五年ぶりに厳肅に齋行され、伝統神事が奉納された。

当神宮では、毎月初卯の日に縁日祭を齋行している。特に旧二月初卯の日は、かつて農業、漁業、商工業に従事する人々が祈願する縁日大祭として大変賑わっていた為、この度復活することとなった。

往年の賑わいと呼び戻し、氏子等に郷愁や神社への思いをめぐらせさせるため奉祝行事として、祭典終了後、三月に行われた第十三回シヤンシヤン馬道中唄全国大会において、グラントチャンピオンに輝いた田上小百

合さんを中心に日本民謡協会日南支部会員による「シヤンシヤン馬道中唄」。二十年ぶりに復活された「うどさん獅子舞」。舞楽「關陵王」。

「浦安の舞」が神前にて奉納され、多数の参拝者を楽しませた。

参道では、当宮ではじめての日南物産フェアが十日、十一日の両日開催され、参拝者が海産物や農産物などを買い求める姿が見られ終日賑わった。



蘭陵王



物産展



別当宮司 先賢慰霊祭

五月二十五日午前十一時より、鵜戸山別当墓地において歴代別当宮司遺族をはじめ多数の参列を賜り、別当宮司先賢慰霊祭がしめやかに齋行された。

この祭典は、当神宮の特殊行事の一つとされ、神仏合同の慰霊祭として位置づけられており、宮司祝詞奏上の後、願成就寺住職 川崎光俊氏（日南市）、玉栗寺住職 甲斐芳文市（宮崎市）の経が奏上され、御詠歌の法要、玉串拝礼と執り行われた。



第十三回シヤンシヤン馬道中唄全国大会開催 シヤンシヤン馬道中再現

全国的に愛唱されているシヤンシヤン馬道中唄全国大会が、三月二十七日・二十八日の両日開催された。大会は幼年、少年、成壮年、実年、老年、寿年の部に分けて開催され、県内はもとより遠くは富山県などから合わせて四六五名の参加があった。

初日は、日南市文化センターと保健福祉総合センターに分かれて予選(幼年、少年は除く)が行われた。二日目は会場を鶴戸神宮儀式殿に移し、各部門の予選を勝ち抜いた一五三名と幼年・少年の部の参加者で決勝が行われた。

会場は、民謡愛好家や参拝者で埋まり、出場者が太鼓や三味線、尺八の軽快なリズムに合わせ自慢ののどを披露。唄の終わるたびに大きな拍手が送られていた。各部門の優勝者の中からグラントドチャンピオンが選

ばれるが、今年は成壮年の部の田上小百合さん(日南市)が栄ある座に輝いた。又、同大会に合わせて当地方の風習であったシヤンシヤン馬道中の鶴戸さん詣りが再現された。

今年是全国から十八組の応募があり、梶ヶ内 建・奈緒美さん(奈良県)、森知春・みどりさん(茨城県)、内村 誠・恵さん(鹿児島県)の三組が選ばれた。

本殿にて正式参拝の後、花嫁が乗った馬の手綱を花婿が引いて境内を一周。参拝者も新婚さんの昔さながらの出で立ちに、しばし足を止め、カメラに収めたり一緒に記念撮影をしていた。

※森 みどりさんは、鶴戸さん出身で、お父さんは日南市役所勤務です。宮崎の大学時代にお互いに見染めあい目出度くゴールイン。着飾った衣裳を身につけ、

結婚後はじめての“うどさん詣り”に深い感激を味わっておられました。



獅子舞の復活

二月二十八日、鶴戸地区の後藤満儀氏他六名の方々により、地区に伝わってきた獅子舞の講習が儀式殿にて行われ、職員九名が受講した。

この獅子舞は、古来よりずっと続いていたが、昭和五十五年の御神幸祭を最後に、舞われなくなっていた。このままでは、舞が途絶えかねないとの危惧から、縁日大祭を機会に当神宮の職員で伝承していく事となり後藤氏に依頼、この日の伝授となった。



森 智春・みどり御夫妻



災害復旧工事竣工奉告祭

昨年六月九日に起こった、参道の土砂崩れ災害により、進められてきた復旧工事の竣工奉告祭が、二月二十六日午前十一時より、工事関係者の参列を賜り意行された。

この工事は、各方面の御尽力により、参道下方の沿岸漁業の保護を最優先とする、災害復旧治山事業として林野庁に採択され工事が進められ、装いも新たに全面復旧する事ができた。

参道復旧協賛者芳名

(平成十年十一月二十二日~平成十一年二月二十六日)
皆様方の御浄財誠に有難うございました。ここに厚く御礼申し上げます。

- | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|
| 佐原 義男 | 平下 与平 | 斉藤 満 | 馬渡 雄次 | 万田 国広 |
| 岩井根組合 | 金岡 利江 | 俵本 和裕 | 綾 春雄 | 山崎 邦夫 |
| 富田ヒサノ | 迫田 政雄 | 中島 武吉 | 加藤 守 | 上松 萬暎 |
| 八木 吉雄 | 木之下悦夫 | 斉藤 泰広 | 福山 信成 | 山下 茂敏 |
| 今野 忠司 | 梶原 長雄 | 宮崎 賢一 | 福山 正士 | 小池 りさ |
| 陳 希榮 | 熊谷三喜男 | 西野 里美 | 福山 泰正 | 灰谷昌史 |
| 稲見浩三郎 | 鈴木 利光 | 竹ノ内鈴子 | 吉村 和子 | 三村つた子 |

- | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|
| 舟岡 規夫 | 山田 市郎 | 舟岡 昌宏 | 白鳥 定昭 | 杉嶋 重信 |
| 伊藤 秀昭 | 赤塚 由圭 | 片岡 政彦 | 村中 哲矢 | 北浦 潤三 |
| 中村 剛 | 和才 始 | 寺井 孝喜 | 小菅恵美子 | 波田野 毅 |
| 鈴木 敏子 | 高嶋 宗子 | 鈴木 望 | 糸永伸一郎 | 遠矢 和幸 |
| 中谷 茂昌 | 浅田 建治 | 佐藤 将治 | 小林 淳輪 | 姫野 富彦 |
| 石黒 満昭 | 浜本 勝彦 | 山田 忠樹 | 森田 素張 | 濱砂 正 |
| 冢田 芳光 | 村田 和孝 | 服部 康直 | 山口 大資 | 有川 道雄 |
| 山本 和成 | 那須 勇精 | 山本かつえ | 山本 吉治 | 西森 清次 |
| 川嶋 健市 | 貝沼 和則 | 吉岡たみ子 | 足立 玉枝 | 浅野喜美代 |
| 久保 富子 | 馬場謙之介 | 吉田 栄治 | 都築 啓 | 三好千恵美 |
| 池田喜代子 | 鈴木 幸子 | 國友 洋市 | 東谷 重男 | 伊藤 映子 |
| 石上 重行 | 岩佐 慎 | 杉本 定継 | 瀬戸川源二 | 山口 裕子 |
| 白原 宏子 | 山田 剛 | 松坂 忠良 | 神宮司 宝 | 吉岡 清子 |
| 本間 正子 | 村田 健造 | 清水寿一郎 | 岩永 信生 | 安部 武 |
| | | | | 三輪ゆりか |

鵜

戸

清田テル子	長渡 万嘉	寺原 美鈴	博士	鈴木 三三	外山 富子	松本 吉彦	吉田 一	酒元 英二	田代 逸哉	櫻井 正一	横山 照子
中島 靖恵	伊集院 栄	高宗 澄男	斎藤重希子	二見 剛史	畑中由美子	溝田陽一郎	鳥巢千美子	山辺 綾子	田村 寿朗	鈴木 利光	糸井 靖子
高原 平	益崎 麗子	出水セツ子	林 一彦	茂木 昭	村上 博之	大澤 秀明	奥山リツ子	大盛 清司	首藤 弘樹	長谷川清弥	山元 和代
川上 英俊	宮浦 勝	吉行 輝奎	宮崎サイン	小原 豊明	住吉 孝	足立 俊秀	馬籠 鬱子	榎山 哲朗	浜田 治則	長友 義雄	宇治野三郎
横山 和男	富川 敏次	永川 裕子	土屋 睦夫	鎌田 清隆	園師 貴幸	林 敏	立場 正志	柴田 広蔵	浜尾 博行	長友 マツヨ	児玉 隆治
神田 足水	佐々木哲也	池下 公三	税田 司	戸田 勝	齋藤 新也	出口 篤	佐野 隆政	安藤 学	清水 正子	長友 マツヨ	児玉 隆治
神田 泰幸	石坂 時春	古川 哲也	中原 栄吉	西脇 貴志	大森 弘子	妹尾 進	裏野 康雄	山岸 近	追田 春義	米倉 林	戸高 保
甲斐 文子	石坂 和子	雪本 高子	中村 圭子	藤本 佳美	本崎 信義	榎本 政雄	八代 哲雄	岩崎 久也	横田 宗一	渡辺 一夫	福盛ユキエ
栗田 忠光	河野 力	西岡 明夫	中村 敏秋	城戸美恵子	古田 耕造	若松 泰誼	岡田 洋次	東家 篤子	三國谷時雄	金川 淳一	春日 五男
宇都 晃一	稲田 勝朗	穂満 直子	布谷 修	田中 良藏	亀田 昇	榎田 英樹	山下 徹	成田美名子	大平 晋司	中西アヤ子	及川 みつ
上野サチ子	市来 緑	越智 瑞江	中村ミチ子	松田 清	菊池 得雄	宝徳ハマ子	長谷 雪子	黒木 秀樹	甲斐 誠三	山下 元治	和田 勝敏
木下 直美	後藤 美文	松本 正吉	二部恵里子	平野 陽子	長友 好一	松田 弘子	土本 節子	吉岡忠太郎	松岡 堆	佐藤 幸	北原 洋子
太良 網純	後藤 珠美	丸野 泰徳	後藤 三雄	今村 太	井上 敏秋	齊藤 潤	宮田 幸子	鈴木 秀夫	中川 依子	川崎 悦二	高田 節子
間野 達也	南部 フク	落合 正昭	後藤 三雄	天辰 文博	鈴木 一男	今井 一孝	高津 功子	末竹 誠司	角田 昭雄	坂本 太恵	市元 利幸
鈴木 正敏	渡辺 明	湯浅 力馬	谷 博	重森 文人	高瀬悠規子	那須 敏實	清水 栄子	興福瑠美子	難波 君子	鯉川 静香	小田島輝雄
川越 シゲ	横山 真	湯浅 力馬	谷 博	重森 文人	高瀬悠規子	那須 敏實	清水 栄子	興福瑠美子	難波 君子	鯉川 静香	小田島輝雄
島津 義和	池江ミヤ子	稲葉 博	川崎 博志	枝尾 英伸	吉田 靖夫	泉 幸子	岩満 秀人	佐々木 彰	井上下ミ子	石井 博	
内村 修	南 代志子	秋野 年行	平岡 孝司	牧之内久子	村元 正一	老田 瞳	西山 鈴	飯弘 努	吉倉 良雄	満江 正博	
平野 恭宏	宮本佐大生	田辺 定國	今枝 純一	三宅 邦彦	石田 六夫	岡村 将好	荒金 圭子	岸原 しず	三尾 和哉	村田 真美	
畑中ヒサ子	西園 秀幸	伊崎 久徳	松田伊勢乃	内山 明	藤間裕佳子	三輪朱見子	柳田 康信	岡上トメ子	鶴田 武三	日高 仁子	
桑村 和久	松田 佳子	竹中 テイ	鶴戸夜詩子	中山 保	細川国次郎	青山 智美	河野 好幸	小松 昇	関谷興太郎	島本 弘子	
土肥 徳義	岩崎 洋子	山口 富美	丸山 治美	矢野 正男	江口 光男	志村 泉	河野 等	小林修一郎	増田 次郎	山口祐太郎	
田尻 重徳	嘉悦 京子	高橋 辰男	岩城 房吉	清水 亨	駒井ちえみ	家城 昭三	滝田 忠弘	桑原 梢	原田伊佐男	松下 俊士	
追口キヌ子	阿波 城史	清水 政儀	前下 純秀	岸野 常正	長田 翔	長友美穂子	長友 勝熹	戸野 三夫	田中たつみ	大塚 啓一	
作前恵里子	永野 光一	岡留 真吾	三浦 義雄	義岡 寛	相良 久雄	羽田野 宏	野田 公明	安藤由紀子	栢山 實	吉井 淑子	
岩切 清武	白濱あい子	杉松 士	山下 文彦	鈴木 良久	山下 光明	渡辺 守二	園田 大貴	藤井 静子	今平 裕司	今城 隆行	
園田 吉秋	中村 孝光	米衛 和幸	山下 一男	栗林 和子	山口 月見	野矢 信三	古高 武	吉田 昌子	若杉 鏡平	浅田 耗二	
松尾 光	井尻 貴邦	石山 礼三	加室 一臣	斎藤 盛照	上島 久男	野矢 信三	古高 武	高松 諸栄	武田 紀子	古屋 守朗	
福元 純徳	魚澤 由美	田中 篤徳	平本 秋	小松野典雄	小林 信幸	衛藤 信一	溝田 耕一	渡邊 康秀	渡辺 仁	清水 隆之	



鵜

戸

大熊 純一	山下 清伸	諸井 清治	野口 よね	吉村 聡	滝浦 まつ	伊藤 千歳	西田 富弘	三輪 義郎	久保 雅昭	松葉口 清	黒木 清
眞野 久夫	五代 美香	藤岡 秀康	前川 照子	永田 博昭	奥村 博文	勢力 晃	大野キヌエ	西尾ウメ子	田中 宏	山下 博子	一木 實枝
村岡 正美	溝口 文雄	小川 正子	楠 尚江	西川雄一郎	山下みどり	宮崎 敬雄	飯田 克彦	竹内 信吉	山上 勇	鬼塚眞理子	小泉 実
山下 花子	川畑 純子	中田 睦	箕輪 良信	川島 好禮	村田 良二	上畑影位子	宗方 俊秀	浅井 晃	池永 哲夫	赤池 勉	桜井 淳美
西村 民男	川畑 栄子	西野 行道	牧田 久代	小西 正雄	堀口 秀夫	川野 好幸	上本 達三	石倉 俊男	有島 靖博	上原 みか	牛之濱四男
中岡 貢	小川 萬	吉松 武彦	小石 正年	佐川喜代子	越智はる子	林谷 茂	山田 敬藏	武田寿美子	橋本 文幸	倉石 幸子	坂本 敦
尾崎 時若	谷口 英美	松岡英逸郎	関 直明	樋口 伸宜	小垣 悦子	引田 脩	上谷 征夫	安宅 京子	教山 晃昭	河内 孝郎	石塚 宗博
清原 光晴	一橋 宗正	岩田 能子	田中ミトリ	深田 静男	小池 洋司	大森 純子	日高えつ子	中根富貴子	佐藤 登	鈴木 一洋	東郷 芳朗
岩原 善昭	布施 信夫	向 井	野田 千寿	永野 誠	角田 頼道	吉澤 晟介	奥田 成夫	上飯屋昭一	高崎 雅夫	伊藤 伸	井本 高一
八幡大神社	遠藤 茂子	森田 武士	青木素美代	水野 薫	角田 三郎	八木 健一	浅田フミ子	福田 省一	池島 ミエ	河野 安代	石村 英子
笠井 久	遠矢 久徳	高木 康雄	児玉 実	森田 洋子	河原 啓子	南良 良治	野瀬 洋司	前田五百里	岩村ハマ子	木村 俊雄	村松 浩子
吉田 茂善	高木 義光	小室 弘之	楠田 哲三	森田 禮子	内田日出子	掛谷 寿子	洪皮ヤス子	穴井 厚	五反田久美子	宮崎 浩	岡 継仁
緒方 健一	比田 道行	長瀬夕祐子	追田幸四郎	小松 良美	都築弥一郎	味戸 伸之	白砂 忠臣	肥野 昌春	伊地知ムツ子	原 硬毅	小松 斉
戸川 浄子	井頭 隆明	大久保昌弘	西ノ原佳子	豊田 和裕	池田 和郎	岩崎 香代	遠山 久夫	近藤由美子	植田 敏子	原田 礼子	筒井 寧
沖本富美江	高木 伸吉	黒崎みよ子	國貞 建也	舟山 仁	殿岡 正友	横山 公一	平嶋 渡	鎌田 亨	恩田 猛	清藤 辰夫	岩淵スミ子
広瀬 テル	古一 礼子	西村 雄一	肥後 紀夫	安富 和夫	長谷川 昇	福水 清治	児玉トミエ	佐藤 頼子	清藤 辰夫	和田 稔	福井 千代
酒井 正一	阿久根俊徳	小東猪之助	遠藤 勝三	堀尾 光一	丹野 譲	小林 健二	栗田 俊雄	藤本いくよ	和田 稔	清藤 辰夫	岩淵スミ子
山本 圭子	坂元 忠徴	山口 浩一	岡部 洋明	堂村 知沙	山路 幸子	小松みよ子	大石 富一	高坂 哲夫	緒方 忠一	平田 肇紀	佐藤 勝武
地廻所ヤエ子	徳富シズエ	坂本 博美	西村 恒	川口 鶴松	堀内浩太郎	半澤 宗	江川 義明	小島 操	緒方 忠一	平田 肇紀	佐藤 勝武
吉田 光男	山川真由美	宮崎 國雄	山口 昌寿	福留 正行	中山 節男	有田 和子	稲田 武彦	衛藤 圭二	新見 達也	福永 芽正	高山 修子
宮川 美穂	佐藤 祥二	鏡 一男	長友 正章	先崎 雅加	岩本フサエ	大迫 良三	神谷紀代子	調子 昭雄	請岡 明子	河野 眞二	鈴木 光政
竹内 栄一	吉光 忠三	黒木 被七	播間 利光	河野 衛	田中つや	赤木 清一	栗原 幸子	上川ユクコ	原口 仁	阿部 貴幸	白井靖二郎
柳川 峰造	山地 健樹	松下 武彦	杉尾 正俊	芝田 良倫	平田 精一	青木 應篤	谷塚 春雄	東新 哲治	吉村 隆子	内田 久雄	中山 兵衛
藤田 芳子	平原 一郎	植田 朋美	佐々木キタ子	富田啓史郎	引野 盛秀	肥後 美保	日野ツユ子	森本 剛毅	山本 寛	天野ヒトミ	萩原 武敏
柳川大二郎	山崎 修	今村 久雄	高木 真弓	伊藤 一博	中原 昭三	前田 陸子	坂田きくみ	大楠 泰雄	田中 泰彦	平山 博士	大滝 三男
石毛 金蔵	西川 輝一	上村 喜一	高原 泉	帆足いさ子	一瀬 稔	水居 徹	前田エイ子	谷口 勝洋	高木 茂豊	天野貴美恵	秦 春義
安齋 實	山本 猛	増野 孝俊	小林 末保	吉田 健治	豊永 繁孝	横山 阿矢	沼口 常二	山口 才一	角田 繁	岩崎 涼子	上村 武昭
高野 俊子	亀元 幸子	芦田 信子	吉岡 涉	藤井 忠彦	安 俊子	堤 笑子	大林 正宗	小倉 雅子	稲元 盛重	池村 壽	井上 忠明
酒井 敏子	岩尾八千代	黒木まり子	岩室 紀男	後藤 俊雄	小澤 都子	原 和子	平木 早苗	関口 俊一	松田 直忠	河野 リツ	浜田エイ子
浅野 満明	中澤 計三	宮本 満雄	橋 敏行	安田 甫	岩崎 知子	吉永美智代	浜田 勝	松崎 隆彦	亀澤 宏明	井関 紳二	藤田 善吉

31日	31日	27日	23日	15日	5日	3日	1日	24日	23日	17日	15日	11日	8日	6日	3日	1日	27日	17日	17日	13日	6日	1日	23日	15日	12日	1日	7日	1日	2日	1日	日
引大式に	15時	10時	11時	10時	10時	10時	10時	10時	10時30分	10時	9時	10時	10時	10時	10時	11時	10時	9時30分	10時	10時	10時	10時	10時	10時	10時	10時	10時	10時	10時	10時	時間
		中	末	一之	末			大				一之	立		中		末	末			一之				一之		八		七	七	
除	大	煤	天	門	緑	火	月	水	新嘗祭(五穀豊穰感謝祭)	儀	七	緑	神	平	明	月	福	皇	神	竈	緑	月	秋	敬	緑	月	月	月	月	日	
式	祓	弘	長	守	日	産	次	神	嘗	式	五	日	御	成	遷	治	智	子	山	山	山	分	老	日	次	日	次	次	次	典	
祭	式	祭	祭	祭	祭	祭	祭	祭	祭	祭	祭	祭	祭	祭	祭	祭	祭	祭	祭	祭	祭	祭	祭	祭	祭	祭	祭	祭	祭	祭	名

平成十一己卯年鶺戸神宮御神事一覽表(七月〜十二月)



鶺戸稲荷神社 鳥居奉納

五穀豊穰、大漁、商売繁盛の守護神として信仰されている鶺戸稲荷神社に、有限会社キッチン(日南市)より鳥居一基が奉納された。奉告祭は、好天に恵まれた四月十四日午前十一時より斎行され、代表取締役石井勝範氏他二名の参列を賜り社業の隆昌を祈願した。



燈籠奉納

四月二十五日午前十一時より、奉告祭が休憩所横にて斎行された。燈籠は、株式会社三ツ和荘社長 和田皓氏(日南市)より二基、当神宮宮司 杉田秀清氏より一基、それぞれ神恩に感謝し奉納され、眼下に日向灘を見渡せる、千鳥橋先の参道横に設置された。



いさみ太鼓奉納

五月晴となった五月五日のこどもの日、午前十時よりそろいの鉢巻、法被姿の地元の子供たち五十名が鶺戸の大神様と祖先の恩に感謝すると共に、健やかなる成長を祈り、御本殿・儀式殿前にて元氣よく「いさみ太鼓」を奉納した。当神宮下の磯に打ち寄せ砕け散る荒波の様子を表現した大鼓・笛・鈴、これに合わせて勇壮に舞う子供獅子に参拝者も足を止め、さかんにカメラのシャッターを切っていた。